

「バリアフリーではない施設の突破方法調査」

応募チーム名：横浜ホイールマップ：神奈川県横浜市

(特徴)

代表をはじめとするチームメンバーは車椅子での生活を送っており、当初はバリアフリーの店舗を探していたが、「バリアフリーの飲食店に行きたいのではなく、食べたいものがある飲食店に行きたいのだ」との気づきから、特に難易度の高い店舗形態と考えられるラーメン店においてどのようにバリアを突破できるかのデータを蓄積することに



活動の中心を移し、バリアの類型化や突破する映像の発信、ラーメン店を訪れて食事をしながらバリアについて意見交換する「バリア突破イベント」などに取り組んでいる。更なる課題として、ラーメン店へ行く道中の鉄道駅でのエレベーター利用の困難さが挙げられるため、エレベーターの利用状況のオープンデータ化や、それに基づいた、車椅子での移動に対応した情報が得られる経路探索アプリの開発などにも活動領域を広げようとしている。

(アドバイス)

1. 調査を通じて明らかになってきたバリア突破方法の整理と発信

これまでの活動を通して、お店の構造の特徴ごとに効果的なバリアの突破方法のノウハウが蓄積されてきていることと思います。この機会に、類型化などの整理を行ったデータについて、多様な媒体を通して広く発信されてはいかがでしょうか。突破方法についてのわかりやすい解説や映像を発信することが、興味を持つ人や一緒に活動したい人の増加に繋がっていくものと考えられます。

2. 関連するアプリやサービスとの連携

バリアフリー店舗の情報を収集・発信している「ウィーログ」や、横浜駅構内の車椅子を利用されている方向けの乗り換えアプリ「らっくる」等のアプリやサービスとの連携を深め、車椅子の方が総合的に情報を得られるプラットフォームとしての成熟度を高めていくことが効果的と思われる。その過程で、バリアのある店舗についての情報を扱うというホイールマップの特徴や強みについて改めて整理し、今後のビジョンを策定されてはいかがでしょうか。既に検討されている、鉄道駅のエレベーターの利用状況のオープンデータ化などの取り組みはホイールマップの活動の特徴の延長線上にあるアイデアとして位置づけられますが、ビジョンの策定は更なる新しい取り組みへの展開のきっかけになるはずです。そして、活動の資金的基礎の一つとしてもアプリ開発の成功に期待しています。

3. 課題をめぐる多様な視点からの意見の把握と共有

飲食店のバリア突破という一つの課題でも、車椅子の利用者や飲食店の従業員、周りのお客さん、介助者など、立場によって見え方や感じ方が異なり、できることもそれぞれです。また、車椅子の利用者の間でも、人それぞれに感じている困りごとが違うのではないのでしょうか。そうした多様な意見を共有する機会を増やし、課題とそれを取り巻く状況を多角的に捉えることで、活動が育っていくことを望みます。

4. 横浜市役所への期待

横浜市役所には、市役所が専門学校に対し開発支援しているアプリとホイールマップの取り組みとの相乗効果を生むための連携のサポートをする役割を果たすことや、地下鉄駅のエレベーター利用状況をはじめとする所有データの更なるオープン化を図ることを期待致します。